

EQUAL

Kawata Yukihiro

河田 幸広

青山ライブ出版

登場人物

時雨 しぐれ 幸途 ゆきと .. 泣華中学校3年生、転校生。
ユキ .. 幸途の死後生。
冬橋 ふゆはし 仁吾 じんご .. 泣華中学校3年生。
青沢 あおさわ 剣志 けんし ..
鳥野 とりの 星也 せいや ..
寺瀬 てらせ 京 きょう ..
寺瀬 てらせ 月 つき .. 泣華中学校1年生、京の妹。
伊原 いはら 秋良 あきら .. 泣華中学校1年生。
横井 よこい .. 教師(女性・担任)。
勝平 かつひら .. 教師(生徒指導)。

その他、学生、親など。

プロローグ

場面…教室

クレジット…5月

休み時間のため、生徒たちはおしゃべりしたりゲームをしたりしている。

幸途、次の授業の準備をしている。

そこへ、青沢が来る。

青沢 冬橋が呼んでいるぜ。

幸途 俺を？

青沢 ああ……。

幸途と青沢が青沢の席に座っている冬橋のところに行く。

冬橋 よう、腕相撲しようぜ。

幸途 は？

冬橋 いいから、いいから。

冬橋が左手を机に置く。

幸途 俺、右利きなんだけど。

冬橋 いいから早くしろよ。

幸途 ……。

幸途も左手を置く。

青沢 Ready,Go!

幸途 ……。

冬橋 ……おい、ちゃんと本気でやれよ。

幸途 ……あ、ああ。

冬橋 ちっ。

冬橋が圧勝。

冬橋 もういい、行け。

幸途 ……。

幸途が2人から離れる。

場面…教室

授業中。

教師から見て最後列の左端が幸途の席でその前が冬橋の席。

冬橋 (後ろを向いて) おい。

幸途 ……。

冬橋 こら、こっち見ろや。

幸途 ……授業中だろ、前見ろよ。

冬橋 「授業中なので前を見てください」だろ？

幸途 は？

冬橋 は、じゃねえよ。

冬橋が幸途の教科書に落書きする。

幸途 ……。

冬橋 ……ほい、できた。

国語の教科書の最後のページの余白部分に男性器が描かれて、その上に「オナニー1万回突破!」と書かれていた。

幸途 ……。

幸途は落書きを消すために消しゴムを使おうとするが、そこには女性器が落書きされていた。

冬橋 おい、知っているか?

幸途 ……何だよ。

冬橋 「何ですか」

幸途 ……何ですか。

冬橋 俺の先輩で滅茶苦茶怖い人がいてなあ、今その人、少年院に入っているんだぜ。

教師が近づいてくる。

ホッとする幸途。

教師 静かに授業を受けなさい。

冬橋 あ？ うるせえよ、帰れ！

教師 ……（苦々しく）と、とにかく、ちゃんとノートを取りなさい。

教師はスゴスゴと教壇に戻っていく。

冬橋 馬鹿が……、お、何だこれ？

冬橋が幸途の筆箱から、ルーブリーフ用紙を束ねるための文房具を取り出して使う。

冬橋 おお！ おもしれえ、もらっとくぞ。

幸途 ……。

冬橋 ……何だ、その目は？

冬橋が幸途の髪をつかんで机に叩きつける。

幸途が目を開けると、2人の不良女子が馬鹿にしたように幸途を見ている。

幸途の頭に他の生徒が投げたゴミ屑が何度も当たる。

教師は我関せずで授業を続けている。

冬橋 これからは俺に敬語を使え。

冬橋は右手で幸途の髪をつかんだまま、左手で油性ペンを使って幸途の机に「時雨で〜す」と落書きする。

幸途 ……何でそんなことするんだよ。

冬橋 理由なんか聞くんじゃねえよ、あと、「敬語使え」って言っただろうが！

チャイムが鳴る。

冬橋 ちっ。

教師 はい、日直さん。

日直 起立、礼。

生徒達 ありがとうございます。

教師が教室を出ていく。

男子生徒が1人、幸途に近づいてくる。

冬橋 何だよ。

生徒 A いや、俺たち社会係だからさ、明日持って来るものとか先生に聞きに行かないと……。

冬橋 うるせえな、お前1人で行けばいいだろうが。

生徒 A ……あ、ああ。

生徒 A が教室を出る。

冬橋 おい、俺と同じクラスで運が悪かったな。明日から金持って来いよ。

幸途 ……。

冬橋 返事しろや！

幸途 ……ああ。

冬橋 あ？

幸途 ……わかりました。

そこへ担任教師の横井が教室に入ってくる。

横井 はいはい、終わりの会を始めるから日直さんは前に出て。

夕食中。

父 どうだ幸途、学校には慣れたか？

幸途 ……うん。

母 担任の横井先生も良い方でしょ？

幸途 うん。

母 あ、そうだ。知っている？ 要成ようせい中学校にサッカー部ができるみたいよ。

幸途 へえ。

母 幸途も要成中に残っていれば、クラブの頃の友達と部活で一緒にやれたのにね。

幸途 ……さあ、どうかな。団体競技に向いてないから入部しなかったと思うよ。

母 好きでやっていたんじゃないの？

幸途 「遊び」のサッカーは好きだよ。ただ、中途半端だったんだ。つまり素人の中では上手かったけど、

経験者の中では下手だったってこと。

母 あんたが自分から「クラブに入りたい」って言ったのよ？

幸途 友達が欲しかったのさ。俺は口下手だし、あまり愛想もないからね。サッカーは人気のスポーツだから、やっていたら学校で孤立しないと思ったんだ。でも、自分は勝負に拘るクラブ・サッカーよりも、楽しいサッカーがしたかったんだなって、最近気付いたよ。